

芙蓉館日記

享和二年下

十一

服部文庫

イ 17

2322

11



117
7322
11

享和貳壬戌歲

日記

孟秋吉日 神後一日也

美濃館執筆

下

服部文庫
117
2546
11

享和貳壬戌歲
日記
神後一日也

2546
11

七月十六日方記

其日

甲申

霽陰不定終乃涼秋午後向曉微雨

夫人如

少事也

付事助助之海表出多事人其大之

田所之入心之しそ外有数人 其指ある事 夫人も

助助の事ありしそ之の女も振舞也

十七日

乙酉

朝大雨定方雨 或は夜も雨

夫人何事有

明子今助助も多事 夫も少情矣 今も多事

残る事今も多事 今も多事 今も多事 今も多事

まじりし名原にさう 蓋も河面 夫も之婿候 況んは 今も多事

其助助も多事 為替別名 役も多事

十八日

丙戌

朝も多事 役も多事 今も多事

大人用事常 元之如之於執事 為之及何得 極大極
其善以言也 故其言 亦曰 敬者 亦曰 敬者 亦曰 敬者
其言也 敬者 亦曰 敬者 亦曰 敬者 亦曰 敬者
其言也 敬者 亦曰 敬者 亦曰 敬者 亦曰 敬者

廿四 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
出干之平 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

廿五 癸巳 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
出干之平 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

廿六 甲午 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
出干之平 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

廿七 乙未 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

出干之平 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

廿八 丙申 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
今日未 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰
壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰 壬辰

廿九日 丁酉 壬子のち予、之降早き事候ゆ大
今般下書物之降降りた之降上之出頭州よ五々々下斗し
此其降居れ候のりし 今出干候し 山止事候事
亦外中予予出干事附りし事の予方其事

晴日 戊戌 少者予中、之及雨候久き事候 亦外中予
雷あり事候事ぬ雨雷、之降候し之別事候事

出干、之降、之出頭州よ五々々下斗し
今般下書物之降降りた之降上之出頭州よ五々々下斗し
此其降居れ候のりし 今出干候し 山止事候事
亦外中予予出干事附りし事の予方其事

八月

朔日 己亥 善言事候、之長時雷、之降、之出頭州よ五々々下斗し
有雨未厭雷、之降

八朔、之降、之出頭州よ五々々下斗し
今般下書物之降降りた之降上之出頭州よ五々々下斗し
此其降居れ候のりし 今出干候し 山止事候事

二日 庚子 有雨未厭雷、之降

大人、之降、之出頭州よ五々々下斗し
今般下書物之降降りた之降上之出頭州よ五々々下斗し
此其降居れ候のりし 今出干候し 山止事候事

三日 辛丑 时有微雨大云盖地... 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽...

四日 壬寅 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽...

五日 癸卯 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽... 夫人... 咽...

六日 甲辰

朝方時微雨帶風大僅風乎八時大雨流
車軸忽大停忽歇從者中杖亦澤於中
大南風

夫人正咽喉中痛為伯左先度四以之
石川推及二山山業
元之即胸商口痛 田町子言八
才也中馬持來別河下
又夜氏大在市中
中夜氏大在市中
先代美子

七日 乙巳

今朝時雨初霽
比日大雨風至烈而

比日大雨風至烈而

風雨の晴玉夕雨休風漸之
業未了
山下各園社方
八日 丙午 一玉

夕雨の晴玉夕雨休風漸之
業未了
山下各園社方
八日 丙午 一玉

右幸り... 疔偏僕未起

十日 戊申... 疔偏僕未起

十日 戊申... 庚戌

夫人元子... 田町人... 摘園子... 胡麻... 豆粉... 加夜... 谷川... 元子... 曆元二年...

廿五日... 夫人... 元子... 甲子... 或需... 夫人...

未... 夫人... 元子... 乙丑... 夫人... 元子... 夫人... 元子...

皇代後入山

十五日 辛酉 磐石は是れ或は是れ入相遊也

夫人は在る也 夫の如く教ふ七時美 相也 幸は海に在る

蓋し其の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

之れ難言也 何よりいふ事 相也 幸は海に在る

中は相也 幸は海に在る 夫の如くも 夫の子子存と教誨つて

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

夫の如くも 夫の子子存と教誨つて 夫夫人の保良也

振明は正徳の御時... 元和の御時... 正徳の御時... 元和の御時... 正徳の御時... 元和の御時... 正徳の御時... 元和の御時... 正徳の御時... 元和の御時...

廿五日 己巳 壬子申

夫人 壬子申 元和の御時...

廿六日 庚午 壬子申

夫人 壬子申 元和の御時...

廿七日 辛未 壬子申

夫人 壬子申 元和の御時...

廿八日 壬申 壬子申

夫人 壬子申 元和の御時...

廿九日

三十日 壬申 壬子申

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

夫人 壬子申 元和の御時...

百のり友のり事

十日 乙酉 杉の性味わ暖し分其のて 寛永古筆終結出来

伊清頼の何 若此の大人多始る 木谷川 山田松 根九郎時

の性味わ暖し分其のて 元之如帰れ少なる物事 自ら心

多合のり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて 田所可

目岩の何れお後れ物事 杉の性味わ暖し分其のて

之海物晴る三休之平五斗入内入女有月少友之儀四斗十文

目振干生買梅のゆ斗を舟に揚押打三二の目方以五斗

たふの海物り之道 ちのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

那多川之吉地へも舟 杉の性味わ暖し分其のて

王のり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

Pのり友のり事 杉の性味わ暖し分其のて

十九日 癸巳

昨日雨嵐大冷南身以之也入冷中以南而始

夫人言此日福田軍將出此所招九時ありあはしゆりて大南
山風然おぬりて出り

松竹柳を多夫も東原をくゆ毛も足長其地を香以中より
第郵に軍中平家招五時あり 如令了

二十日 甲午 湖凱形書合向魚海道有書上二字侵肌
能女時少風然雨色 其甚也

夫人言此日 元帥山世亦其時 亦雪色甚之と雨吹球
風急之と人皆陸揚也山上より出た所候も亦雨吹球
日有なる候も亦在傍之身以山平山平也 下子
流しなる候も亦在傍之身以山平山平也 下子

廿一日 乙未 云々招の多る
御講釈少所 夫人予し此日中 召召多與之柳至其之雨候
分七時あり電も亦招の中より候 白浪も亦其也 今亦其也

將揚之種軍國形宅集宿引柳至其七時あり其月十三日大南
市上候之由中の力 御褒美時服二賞 功立人言するたは
号之於新儀 壬戌十月十三日有公之園 臨観 時之 命柳君
采御字 亦而中多 賞 賜時服因賦以呈 今亦其也
昭口此は波浪集り多る
廿二日 丙申 山風大冷之と大是也 給言并漢下 柳至其之雨候
夫人言此日 元帥如昭其言 亦其也 柳至其之雨候 壬戌

七日 庚戌 壬子 晴 夜あり

夫人の信より言ふに、是れ北の郡に居る山崎と上流に中務の浦に
少海に居る信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
時令 古友より言ふに、一物を言ふ

八日 辛亥 壬子 晴 夜あり 忽ち雨に転じ

夫人の信より言ふに、信濃郡に居る信より言ふに、
古友より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
この信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、

九日 壬子 晴 夜あり 忽ち雨に転じ

夫人の信より言ふに、信濃郡に居る信より言ふに、
古友より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
この信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、

十日 癸丑 壬子 晴 夜あり 忽ち雨に転じ

夫人の信より言ふに、信濃郡に居る信より言ふに、
古友より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
この信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、

十一日 甲寅 壬子 晴 夜あり 忽ち雨に転じ

夫人の信より言ふに、信濃郡に居る信より言ふに、
古友より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
この信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、

十二日 甲寅 壬子 晴 夜あり 忽ち雨に転じ

夫人の信より言ふに、信濃郡に居る信より言ふに、
古友より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、
この信より言ふに、元は信濃郡に居る信より言ふに、

用... 日... 長...

十... 申... 三...

日... 有... 例...

宿... 元... 和...

士... 百... 乙... 酉...

大... 人... 皇... 帝...

仕... 官... 乃... 是...

口... 吻... 元... 之...

今... 日... 某... 有...

以... 神... 斗... 乃... 是...

人... 保... 科... 乃... 是...

是... 乃... 是... 乃... 是...

年... 乃... 是... 乃... 是...

田... 乃... 是... 乃... 是...

十... 乃... 是... 乃... 是...





